

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年2月14日

【四半期会計期間】 第40期第3四半期(自平成29年10月1日至平成29年12月31日)

【会社名】 株式会社安楽亭

【英訳名】 ANRAKUTEI Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 柳 時機

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安部 一夫

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目3番5号

【電話番号】 048-859-0555(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 安部 一夫

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第3四半期 連結累計期間	第40期 第3四半期 連結累計期間	第39期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	12,413,104	12,547,216	16,539,438
経常利益 (千円)	83,851	95,994	171,229
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期(当期)純損失( ) (千円)	88,923	58,350	73,288
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	79,154	69,575	64,461
純資産額 (千円)	6,082,803	6,166,300	6,097,432
総資産額 (千円)	14,804,602	15,414,242	14,847,406
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期(当期)純損失金額( ) (円)	41.58	27.28	34.27
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	41.1	40.0	41.1

回次	第39期 第3四半期 連結会計期間	第40期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	69.82	10.35

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純損失金額を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、従前よりの流れに引き続き穏やかな景気回復基調にあるものの、個人消費におきましては物価の上昇や所得の伸び悩み等により、力強さを欠く状況が続いております。また、東アジアにおける情勢の緊迫化といった海外における政治・経済の不確実性の高まり等により、引き続き不安定な状況となっております。

外食業界におきましては、業種・業態を越えた競争が激化しており、牛肉等の原材料価格が高止まりし、人手不足を主因とする人件費関連コストの上昇、出店や改装に要するコストの上昇と合わせて依然として厳しい経営環境が継続いたしました。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

また、成長戦略を実現するために、既存店舗の改装を積極的に推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高125億47百万円（対前年同期比1.1%増）、営業利益1億13百万円（対前年同期比12.8%増）、経常利益95百万円（対前年同期比14.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益58百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失88百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は190店舗であります。内訳は直営148店舗、暖簾12店舗、F C 30店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、折込チラシを中心とした広告宣伝方法の見直しを行い、メルマガとLINE配信等により、販売促進費の適正化をはかりながら、「カナディアンフェア」、「冬のビッグチャンス宝くじ」、「熱アツ!冬グルメフェア」、「2017年最後の肉の日クーポン」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアやグランドメニュー改定を行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は103億92百万円（対前年同期比1.5%減）となり、セグメント利益（営業利益）は4億27百万円（対前年同期比29.6%減）となりました。

#### 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、開花亭春江店が七輪房業態となり27店舗となりました。内訳は直営24店舗、暖簾1店舗、F C 2店舗であります。

販売促進等につきましては、「秋の行楽セット」、「25店舗達成記念大感謝おすすめメニュー25%OFFクーポン祭り」等、メルマガやLINEでの配信を行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は17億53百万円（対前年同期比7.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1億27百万円（対前年同期比119.2%増）となりました。

#### その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営4店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋(焼肉)」、「国産牛カルビ本舗安楽亭(焼肉)」、「花炎亭(焼肉)」、「春秋亭(和食)」、「上海菜館(中華)」、「ロンチャン(中華)」、「AGRICO(イタリアン)」、「カフェビーンズ(喫茶)」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は4億1百万円(対前年同期比74.7%増)となり、セグメント損失(営業損失)は23百万円(前年同期はセグメント利益11百万円)となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ5億66百万円増加し、154億14百万円となりました。これは、新規出店及び既存店の改装による有形固定資産の増加等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ4億97百万円増加し、92億47百万円となりました。これは、新規出店及び既存店の改装資金としての借入金の増加及び長期割賦未払金の増加等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ68百万円増加し、61億66百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,150,434	2,150,434	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は100株で あります。
計	2,150,434	2,150,434		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日		2,150,434		3,182,385		147,735

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 11,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,125,200	21,252	
単元未満株式	普通株式 13,434		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,150,434		
総株主の議決権			

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式42株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	11,800		11,800	0.55
計		11,800		11,800	0.55

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,436,829	2,346,646
受取手形及び売掛金	355,798	386,726
商品及び製品	131,588	170,534
仕掛品	738	1,883
原材料及び貯蔵品	633,292	618,772
前払費用	209,303	211,671
繰延税金資産	85,685	79,389
その他	56,768	139,454
貸倒引当金	745	313
流動資産合計	3,909,259	3,954,764
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,753,693	2,985,755
機械装置及び運搬具（純額）	99,925	92,569
工具、器具及び備品（純額）	325,201	401,113
土地	5,004,097	5,004,097
リース資産（純額）	93,457	64,259
建設仮勘定	2,551	2,255
有形固定資産合計	8,278,926	8,550,051
無形固定資産		
のれん		57,863
その他	127,200	133,170
無形固定資産合計	127,200	191,034
投資その他の資産		
投資有価証券	117,192	133,341
長期貸付金	6,819	6,515
長期前払費用	18,308	21,938
繰延税金資産	32,307	35,837
敷金及び保証金	2,328,021	2,508,102
その他	55,823	38,958
貸倒引当金	26,455	26,303
投資その他の資産合計	2,532,019	2,718,391
固定資産合計	10,938,146	11,459,478
資産合計	14,847,406	15,414,242

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	592,989	703,340
短期借入金	768,108	884,064
リース債務	43,312	40,802
割賦未払金	142,260	187,932
未払金	209,985	197,901
設備関係未払金	73,867	73,207
未払費用	496,854	499,297
未払法人税等	140,594	42,882
未払消費税等	67,100	78,851
賞与引当金	82,300	42,810
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	342,893	531,370
流動負債合計	2,973,565	3,295,756
固定負債		
長期借入金	4,471,527	4,508,817
リース債務	57,588	26,987
長期割賦未払金	454,988	604,831
繰延税金負債	103,935	105,391
役員退職慰労引当金	335,491	347,483
転貸損失引当金	62,727	52,755
退職給付に係る負債	202,115	212,885
その他	88,034	93,034
固定負債合計	5,776,408	5,952,185
負債合計	8,749,974	9,247,941
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	449,883	508,233
自己株式	70,080	70,787
株主資本合計	6,099,449	6,157,093
その他の包括利益累計額		
その他の有価証券評価差額金	2,017	9,207
その他の包括利益累計額合計	2,017	9,207
純資産合計	6,097,432	6,166,300
負債純資産合計	14,847,406	15,414,242

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	12,413,104	12,547,216
売上原価	4,393,025	4,535,989
売上総利益	8,020,078	8,011,227
販売費及び一般管理費	7,919,734	7,898,056
営業利益	100,344	113,170
営業外収益		
受取利息	1,421	1,481
受取配当金	1,966	1,893
受取地代家賃	7,662	5,426
貸倒引当金戻入額	580	583
その他	40,884	38,854
営業外収益合計	52,514	48,239
営業外費用		
支払利息	60,747	57,414
その他	8,259	8,000
営業外費用合計	69,007	65,415
経常利益	83,851	95,994
特別利益		
固定資産売却益	196	
受取保険金	30,897	43,490
特別利益合計	31,094	43,490
特別損失		
固定資産売却損		243
固定資産除却損	17,036	3,033
減損損失	38,788	6,301
賃貸借契約解約損	5,787	9,153
転貸損失引当金繰入額	33,352	
訴訟和解金		9,000
特別損失合計	94,963	27,732
税金等調整前四半期純利益	19,981	111,752
法人税、住民税及び事業税	64,336	54,106
法人税等調整額	44,568	704
法人税等合計	108,904	53,401
四半期純利益又は四半期純損失( )	88,923	58,350
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	88,923	58,350

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	88,923	58,350
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,768	11,224
その他の包括利益合計	9,768	11,224
四半期包括利益	79,154	69,575
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,154	69,575

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	448,167千円	468,946千円
のれんの償却額	千円	10,211千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,551,316	1,632,002	229,785	12,413,104	12,413,104		12,413,104
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	10,551,316	1,632,002	229,785	12,413,104	12,413,104		12,413,104
セグメント利益	607,526	57,960	11,989	677,476	677,476	577,132	100,344

(注) 1. セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては38,788千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,392,062	1,753,776	401,377	12,547,216	12,547,216		12,547,216
セグメント間の内部売上高 又は振替高							
計	10,392,062	1,753,776	401,377	12,547,216	12,547,216		12,547,216
セグメント利益又は 損失( )	427,796	127,041	23,094	531,743	531,743	418,573	113,170

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては6,301千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては37,666千円であります。

「七輪房業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては14,721千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、日総開発(株)から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては15,686千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額( )	41円58銭	27円28銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株 主に帰属する四半期純損失金額( )(千円)	88,923	58,350
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金 額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失金額( )(千円)	88,923	58,350
普通株式の期中平均株式数(株)	2,138,766	2,138,589

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月13日

株式会社 安楽亭  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

代表社員 業務執行社員	公認会計士	小 笠 原 直	印
代表社員 業務執行社員	公認会計士	木 村 直 人	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。